

創建

そうこん

2019・12・20 VOL.54 NO.2 (通巻172号)

巻頭言：浦部智義・1
 じゅうたく小町セミナー・2
 J I A大会 前川国男模型制作・3
 J I A東北建築学生賞奨励賞受賞他・4
 夢工場見学報告／現場見学報告・5
 工学部学術研究報告会・6
 発表論文・7
 学術論文／教室ニュース・8
 ■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

私が工学部に赴任して15年が経とうとしている。大学で教員を本格的にやらせて頂こうと思った動機は幾つかあるが、その一つに赴任前のある大学での非常勤講師としての体験とその後日談がある。当時、その大学で担当させて頂いていた科目の一つが2年生の建築設計演習（課題は、街なかのオフィスビルなど）であったが、いわゆる能力別クラス編成（前の学期の建築設計演習の成績等で振り分けられる）で、私は指導経験の浅さや若くて体力はあることもあってか、建築設計演習に取り組む意欲が最も低いとされるクラスを受け持つことになった。そのクラスは、案の定、出席率も悪くエスキスの進度も鈍い状況となり、途端にクラス運営が行き詰まった。そうした状況を打開するために、諸先輩の先生方からアドバイスも広範に仰いだ、出来る限り粘り強く向き合うしかない、というのが結論であった。

そんな時、関西出身である私が、子どもの頃から個人的に興味を引くような言葉をメディアで発言されている人の言葉を思い出した。その人は、森毅（もり・つよし）氏。数学者であり、評論家・エッセイストとしての顔を持つ。氏の数々の名言は、例えば『「できない子」に、何かを教えようとして、逆に君が、彼から何かを学ぶことの方が、君にとって大事なことだ。』や『学びは人間関係の中に成立する。』とか『正しさは伝染（うつ）らないけど、楽しさは伝染（うつ）る。』など、関西弁で肩肘張らずに、物事の見方を変えてくれる様な語り掛ける名文句が多く、何となく私自身の肌合うものが多かった。

もとい、冒頭の建築設計演習クラスの話。その言葉を胸に、逆に、出席していた学生とはたっぷり時間があるので、長時間色んな話をする様に心がけた。建築そのものやデザインに興味を抱く手がかりを殆ど持っていない彼らと、まずはコミュニケーションを取る（人間関係を築く）ために、課題やデザインのことだけ

でなく、彼らの趣味や暮らし、さらには好きな食べ物や芸能人などについて、先ずは幅広く雑談を楽しんだ。その内に、何だか自分が知らないことも多く、一緒に調べたりしながら、時に建築の話もした。森氏の言葉を借りると、『論理的なことや正しいことばかり追わず、とにかく何でも面白がるようにしています。』という心境である。

そのクラスに所属していた何人かとは、今でも親しくさせてもらっている。その中の一人は、その建築設計演習科目の2年後の卒業設計で評価され、著名な設計事務所でキャリアを積んで、現在、都内で設計事務所を主宰している。もちろん、そんな今日の姿は、本人の努力による所が大きいことは言うまでもないが、その目を見張る成長に微塵でも貢献

魔法の言葉

教授 浦部 智 義

できていたとすれば、こんな嬉しいことはないと感じていた。その彼が大学を卒業し設計事務所で働いていた頃、酒を酌み交わしている時、彼に「先生と取り組んだ演習クラスで、生き方が変わった気がする」と言われた時に、私の人生も変わったのかも知れない。時代も場所も異なり、個々に状況も違うし、今も常に手探りであるが、設計演習や講義などの授業内での出来事に限らず、その様に人を動かしてくれる「魔法の言葉」を聞けるような体験をしたくて、今も教員を続けているのかも。

そうこうしている内に、齢も50。孔子曰く『五十にして天命を知る』であるが、平均寿命が80歳を超える昨今では、10歳割り引いたとして『四十にして惑わず』。いやいや、とてもじゃないが、その覚悟を得られていない心境である。『三十にして立つ』

も甚だあやしいのは、割り切りが出来ていないのか時代のせいなのか、はたまた努力不足で社会の役に立っている実感がないためか。しかし、30代での先に述べた体験の影響を幾らか受けて、今の自分があるという意味では、「何とか立っている」ことぐらいはできているのかと慰める。

今は18歳で選挙権を得られる時代である一方、かつて「30歳成人説」という話を聞いたことがある。平均寿命が延びかつ複雑な現代社会では、精神的自立や人生の選択などが遅めになっている、という内容だったと記憶している。昔の20歳成人と現在の30歳が釣り合うのだとすると、多くの大学生はいわゆる思春期である。その時期に、学科では、回答が単純明快とは言えず、時に赤裸々な自己表現も求められる「建築」を学修していることになる。しかも、発達心理学の分野では、そんな不安定な時期だからこそ、建設的な人付き合いを覚え、小さなことでも何かを成し遂げられた、という有能感を味わうことも大事だという。そんな難題に簡単な答えはないだろうし、考え過ぎると息が詰まりそうだが、私なりに出来ることは、学部・学科の教育目標を意識しつつも、「教育」という様な大それたことではなく、相互に動かし励まし合いながら育つ「共育」かな、と考えると幾分余白が出来て気が楽になる。何事もより楽しく、またより苦しく感じる可能性がある、思春期にあるとされる現在の大学生には、「心に火をつける」ことが出来れば理想としつつ、少なくとも「心の火を消さない」接し方が出来ればと思う。

森氏は言う。『分からんことを楽しむのも、立派な能力です。』、また『若いうちから、もっとムダせい、言うの。ムダがどれだけ身につくかで、教養が広がるんやからね。』と。若くはないかも知れないけれど、成長が鈍く未熟で、移り気な私には、森氏の言葉はやはり心に響く「魔法の言葉」である。

じゅうたく小町 建築現場セミナーが開催されました

11月5日(火)に62号館6232教室にて、全国低層住宅労務安全協議会(以下、低住協)主催による『じゅうたく小町 建築現場セミナー“じゅうたくの施工管理とは?”』と題するセミナーが開催されました。じゅうたく小町は、関東地区で活躍するハウスメーカーの女性技術者を中心に構成されている低住協の活動部会の一つで、会社や業種の垣根を越えて建設現場の安全性を追求するとともに、まだまだ就業者が少ない女性ならではの悩みを共有し、情報交換できる場としても機能しています。小・中学生を対象とした職業体験イベントはあるものの、就職する学生に役立つ活動を新たに展開したいと考えたスウェーデンハウス株式会社に勤務する壁下瑛里子さん(工学部OG・市岡研)から、大学生を対象とした就職促進を図るイベント開催について相談があり、工学部建築学科学生を対象とした企画が実現しました。

台風被害対応で非常に多忙な中にもかかわらず、壁下さんの後輩女性社員、大和ハウス工業株式会社から壁下さんの同級生OBと後輩OBの他、積水ハウス株式会社、塗装メーカー菊水化学工業株式会社からも参加いただきました。設計希望で入社後施工管理に携わっている方、入社1年目の若手社員から10年以上のベテラン現場監督まで様々な経歴の方から、ざっくばらんな日頃の仕事内容について具体的に伺える機会となりました。施工管理職の業務内容、特にゼネコンとハウスメーカーの施工管理職の業務内容の違いに関するわかりやすい説明がありました。最も大きな違いは、ゼネコンは現場事務所に複数が詰めますが、ハウスメーカーは一人で複数物件を掛け持ち、巡回して管理することだと改めて知りました。

施工管理の仕事について概要説明が終わった後、5名のベテラン施工管理者によるパネルディスカッションが行われました。仕事に対する考えや現状をできる限り多く学生に伝えたいと考え、学生に本音を伝えるためにと壁下さんが練りに練った企画です。壁下さんは「臨機応変に対応する仕事だから大変だが、やりがいも感じる」と語りました。5年目の工学部OBは、「実際には現場の職人さんやお客様など、人との関わりが多い仕事という印象が強い。職人さんに教えてもらうことが多く、学生時代に思った以上にいい環境」とのこと。壁下さんと同級生のOBは「現場はまさに生き物。毎日異なる工程を安全に管理していくことが面白い」と仕事の醍醐味を話してくれました。やりがいについては、図面チェック時に現場にしかわからない点を指摘し工事前には是正できた時、引き渡し後も施主の方への対応をする中で親密な関係を築けた時など、エンドユーザーと直接関わる魅力とともに、2次元の図面の世界ではなく実空間の3次元でのものづくり体験に充足感を得ているように感じました。

最後には参加学生との座談会が開催され、就職活動に悩みや不安を感じている学生の具体的な質問にも丁寧に対応していただきました。参加学生からは「第一希望の会社の話を伺うことができ、貴重な機会でした(3年女子)」「直接就活の体験談を聞いたことが良かった(3年男子)」「今まで抱いていた施工管理のイメージとは違い、女性も活躍していることを知り抵抗感が無くなりました(2年女子)」などの声が聞かれ、参加学生にとって有意義な機会となりました。じゅうたく小町と学科の双方ともに、次年度以降も継続の可能性を検討する所存です。



JIA建築家大会青森in HIROSAKI 「前川國男の弘前8つの建築」展模型制作

速 水 清 孝

10月17日より19日まで開かれた、日本建築家協会（JIA）の青森大会（会場：弘前市市民会館）で、建築家・故前川國男の建築模型展が行われた。弘前には、処女作の「木村産業研究所」（1932）から晩年の「弘前市斎場」（1983）まで8つもの前川建築が集まる。そのこともあって、東北の建築学生が大学ごとに制作した模型を1つずつ持ち寄る展示会が企画されたのである。

JIAからの打診は、なぜか日本建築学会東北支部の歴史意匠部会経由となり、そのため工学部は私が取りまとめ役となったのだが、正直、困った。私たちに割り振られたのは、「弘前市緑の相談所」（1980）。前川には珍しい勾配屋根の、小振りながら工夫に満ちた建物で、条件は白模型。難しさに対して、臨む陣容が覚束ない。とは

いえそれも、結果としては噂を聞きつけた2年生までもが参加してくれて杞憂に終わった。

作業は、まず7月に模型用の図面描きから始め、下旬からはコンターや樹木・打込タイル・打放しハツリ仕上げなどの試作を繰り返し、9月に本番の制作に入って、28日、「頑張れば、学生でもこれほどのものができるのか」と感じ入る仕上がりで完成した。その瞬間の、彼らの誇らしげな顔が忘れられない。

一流の建築家の図面に向き合い、模型を造る。その作業を通して学んだことは、間違いなく彼らの財産となったはずである。機会を与えて下さったJIAに感謝したい。なお、展示された模型は、会場でも異彩を放ち、好評を博したと聞いた。



「弘前市緑の相談所」模型



模型と制作陣



展示風景

4年次生 関根奨苑

今回の制作で最も重要な点は、形の見極めにあった。設計図にある形と現状の形。そのいずれでもない竣工時の形が相応しいと考え、これを目指した。しかし、その見極めが難しい。写真や詳細図にもヒントがない。模型を作るより、どう作るかを模索する時間の方が圧倒的に長くなった。皆で延々と話し合いを重ね、試作を繰り返した。振り返れば、それらのことが高い精度の模型の完成につながった。素晴らしい達成感を味わうとともに、模型をしっかりと作ることの大変さと大切さを実感した。

4年次生 小松祐大

この「緑の相談所」の模型制作にかかった期間は約3ヶ月。その前半2ヶ月は完成度を高めるための試作に当てられました。白模型が制作の与条件でしたので、色味のない前提での木や小道の石・門・石垣などの表現の試作を繰り返しました。同じ「白」でも染める素材によって、また、染めた後の加工などによっても、印象が180度変わることがありました。たくさんの試作を何度も作って実験・検討をする。思考を重ねることにより良

いものに近づく、この感覚はとても貴重で、面白いものでした。

大学院修士課程2年次生 川口拓海

模型制作に使う手描きの実施図のCAD化を担当した。書込寸法を頼りに進めても、やるほどに矛盾は増すばかりで、実際には実物の写真と比べながら正解を探す作業となった。それでも、制作の元となる作業である。「院生として間違えわけにはいかない」との思いで臨んだ。直後、インターン先で同じ作業に出くわしたが、自信をもって取り組むことができた。経験が活きた瞬間だった。

2年次生 齋藤泰地

高校時代にもものづくりコンテストに参加していたこともあり、2年生でしたがこのプロジェクトに参加しました。先輩たちと一緒に制作に取り組む中で、自分では思いつかない模型作りの手法や工夫、そして役割分担による効率化について学ぶことができ、貴重な機会となりました。

学 生 の 活 躍 紹 介

日本建築家協会（JIA）主催第23回東北建築学生賞で、本学科4年次生の澤島優さんの作品「生彩を放つ蕎麦」が奨励賞（みやぎ建設総合センター賞）を受賞されました。ここに記して祝すとともに、執筆してもらいました。

リニアなプロセス・リニアな建築

4年次生 澤 島 優

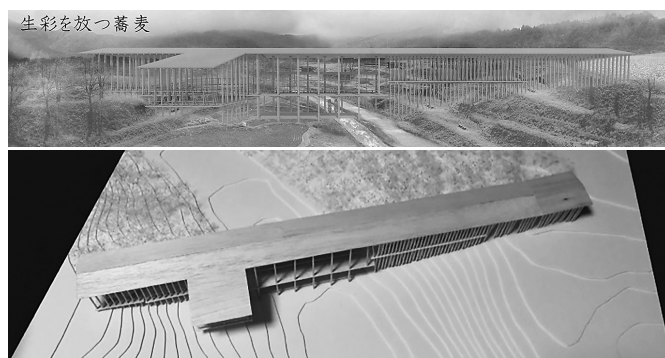
私たちに与えられた課題は、「みんなのプラットフォーム」でした。それを私なりに、空洞化する都市空間や限界集落などにおいて、魅力的なプログラムを手掛かりに、新しい発想で建築を創造する課題であるとシンプルに解釈しました。それに対し、周辺に染み出したり、変化を促しながらも、逆に周辺の環境を柔軟に受け止める建築を計画・設計すれば、様々な活動のプラットフォームとなり、新しいアクティビティも誘発でき課題に無理なく応えられるかも、と考えました。

私が選定した敷地は、茨城県の常陸太田市大里町。この地域は、古くから蕎麦作りはじめ農業が盛んですが、今後は、他の農村と同様に、過疎化が進むことで後継者が数少なくなり、農業等の地域産業も衰退するでしょう。さらに、地域の中心である駅周辺には商業などの施設や住居が集約され再生される一方で、農村では田畑（農地）を所有し容易に住まいを移動・集約できないことを前提に、その暮らしを再考することが喫緊の課題だと考えました。

そこで、今回の提案では、ポテンシャルの高い蕎麦作りという特長を持つ農村を対象として、どこでも通用する特効薬では無いかも知れないけれど、丁寧な建築づくりが地域の新しい営みや暮らしを生みだせる可能性を示せばと思い取り組みました。具体的に、建築に絡む産

業育成の機能としては、蕎麦の生産から加工やそれらの体験、飲食や販売、またコミュニティ機能として、地域の様々な活動を想定しました。それらの機能が、線状の建築空間内で、時に分節しながら緩やかにつながること、小規模ながらも質の高い新たなアクティビティが生まれることを期待しました。このコンパクトな複合建築による新しい営みが上手く行けば、コンセプトに賛同した周辺の農家や地域外の人が移住してくる可能性も考えられ、結果的に人口減少や後継者不足の改善や、空き家の利活用も期待できると考えました。

思考プロセスも建築もリニアな形で、必要以上に複雑にせず伝わりやすかったことが、良い結果を生んだのかも知れません。最後になりましたが、演習や研究室において、丁寧に指導頂きました先生方へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



インターンシップの勧め

3年次生 岡 村 栄 汰

3年生に上がると同時に、インターンシップという言葉をよく耳にするようになります。就職協定が撤廃され早めの就活が必要となっている今、インターンシップは企業を知る上でとても重要であると同時に、早めの参加が将来の自分に大きく影響すると思います。私は建築構造の道に進むことを決めていたので、2年のときクラス担任の千葉先生に相談し、長期間の受け入れが可能な東京の構造設計事務所を紹介していただき、1カ月のインターンに参加しました。その後も今夏に再度1カ月参加し、企業、業界について少しは知ることができ、構造設計への興味関心が強まりました。さらに、この分野に関する知見を深めていかなければという思いが生まれ、元から大学院への進学は考えていましたが、よりその思いが固まりました。

インターンシップでは、私たちがよく目にするメインの仕事だけでなく、人、社内の空気感、日々の書類等の雑務などへの理解を深め、その大切さにも気付きました。仕事には必ずある毎日のルーティンをしっかり受け止めるには長期の方が良いと思いますが、短期間でもしっかりと意識することで、将来へのより良い選択につながるはずです。自分に合った未来を掴むため、様々な体験をし、自分を見つめ直していきましょう。

海外ひとり旅

2年次生 吉 澤 伊 代

今年の夏休みはイギリスに語学留学し、その足でロンドンとパリを観光しました。語学留学ではいろいろ苦戦しましたが、拙い英語でも他国の学生と交流することができ、英会話を磨けば一気に世界が広がることを身をもって分かり、英語の重要性を改めて感じました。

観光では、街歩きで多くのことを発見しました。ロンドンでは中・大規模の公園が至るところにあり、日常的に大人が芝生に寝転び、ベンチでくつろぐ光景を目にしました。大都市でも緑豊かな憩いの場があり、狭苦しく感じる東京との違いを感じ、驚きました。一方、パリは意外と狭く、地図を片手にあちこち歩いて街並みの美しさに魅せられて、至福の時間を過ごしました。

それとともに感じたのは、建築には実際に足を運ぶことでしか得られない、五感に触れる空気感や周りの建物との関係性、スケール感など三次元以上の情報があることです。また海外では食、文化、人、社会など現地の生活感が学べて刺激的です。大学の長期休暇は人生の中でも貴重な時間です。積極的に足を動かし、多くのことを吸収したいと思います。次の春休みはイタリアの主要都市巡りと台湾、北京で新たな発見ができることに期待を膨らませています。



積水ハウス 関東夢工場見学会報告

建築学科では、10月4日の創立記念日に積水ハウス株式会社郡山支店主催の本学科学生を対象とした関東夢工場の見学会を開催し、44名の学生が参加しました。昨年開催した際に学生から好評を得て、今年度も開催する運びとなりました。茨城県古河市に位置する夢工場は、北関東から福島県を含む東北南部を対象エリアとする一大生産拠点です。主催する積水ハウスからは、今年度入社した建築学科OB社員も参加し、往復のバス車内では、企業紹介や見学先の夢工場紹介はもちろんのこと、営業職と設計職の違いや実際の業務体験、そして就職活動のエピソードなども交えた話を伺いました。途中で大雨に降られ心配しましたが、参加者の日頃の行いが良く、バスから降りると傘が不要という幸運にも恵まれました。

今回は学年を問わずに参加募集を行ったため、1・2年生の参加が多く、これから学ぶことを知る機会ともなり、将来への就職先を考える意味でも有意義な経験にもなりました。また、昨年度と同じ施設ではなく、普段は滅多に中に入ることができないプレカットの生産ライン工場も見学しました。数名のオペレーターが万が一のエラー対応として待機しているだけで、ほぼ無人化の状態でプレカットが進んでいました。説明によると、営業担当から図面が上がった一棟分を1日で完成させ、倉庫に抱えることなく翌日には現場に運び込み建て方が始まるということです。現場での効率を考え、誰でも組み立てられるような工夫もなされていました。

デザイン性に目が行きがちになりますが、耐震性能に優れた技術力にも学生が関心を寄せました。木造の良さである木質の暖かさや自然を感じる空間づくりを基本としながらも、木材の弱点である強度を接合部の金物により補完している点に多くの学生が興味を抱いていました。見えない部分にこそ様々な工夫と技術が施されている建築の本質を学ぶ場となりました。最新モデルルーム見学も楽しいひと時でした。

リサイクル循環センターも印象深く、学生には驚きの場所でした。リフォームも含めた全ての建設現場で生じた廃棄物を分別・リサイクルしますが、80種類に細かく分別されます。大量の廃棄物を人の手で丁寧に分別し再利用するシステムに、建設を中心とした循環社会の拡がりとして環境問題を身近に感じたようです。このような機会を提供いただきました積水ハウス株式会社郡山支店の皆様に感謝申し上げます。



大和ハウス工業福島支社オープンデスク

3年前から大和ハウス工業株式会社福島支社にて、本学科学生を対象とした5日間のサマーインターンシップを開催しています。設計職・施工職・営業職の3職種で異なる内容を実践され、担当する建築種別に応じた戸建住宅部門・集合住宅部門・一般建築部門の3部門で受け入れ体制を整えています。オープンデスクの単位修得にもご協力いただき、今年度は2名の学生が2週間(10日間)参加しました。5日間のインターンシップにも6名が参加し、各々の目的意識に応じた有意義な機会となりました。参加者の感想を一部紹介します。

3年次生 大 吉 世偉哉

住宅設計事業部の設計職で2週間のオープンデスクとして参加しました。大学の設計課題では考えない部分まで検討する必要がある、上手く作業が進まず自分の勉強不足を痛感させられましたが、的確な助言や丁寧な指摘を受け、今の自分に足りない設計の考え方や学ぶべきことを見つめ直す良い機会となりました。設計作業だけではなく現場にも赴き、初めて見る測定器を用いた寸法の誤差確認や骨組みが図面通りか否かの確認など現場監督の手伝いも行ったことは大きな収穫でした。日大OBの社員が多く在籍されており、座談会では貴重な話を伺うことができ、改めて日大の繋がりの強さ、卒業生ネットワークの魅力を認識しました。

会社での引き締まった雰囲気や仕事に取り組む姿勢、厳しい職場の一面など、実際の現場で見ただけではなく体験したからこそ、多くのことを肌で感じることもできた経験は大きな収穫です。学生だからと甘えてはいけないという意識が芽生え、今後ともより一層勉学に励む気持ちは強まりました。

建築施工Ⅰ 現場見学会開催報告

3年次生開講科目建築施工Ⅰの授業の一環として開催されている現場見学会ですが、今年度は諸事情により開催時期が遅くなり、白河市しらさかの森近くに建設されている信越半導体独身寮新築工事現場を対象に9月14日に実施されました。今年度は特に夏休みから各企業での1dayインターンシップが積極的に開催されており、学生の就業意識が高まっている中での開催であったことも影響してか、参加学生から現場見学中でも例年以上に積極的に具体的な内容の質問があり、予定時間を超過した活発な現場見学会となりました。施工管理職への志望を固めている学生にとっては、実際の現場における業務内容や職人とのコミュニケーションの取り方など、具体的な目的を持って臨んでいました。現場監督の業務内容だけではなく、現場をまとめる立場でのコミュニケーションや現場の雰囲気づくり、工程の進め方や安全性の確保など、重責が伴う一方で、やりがいも感じる仕事であることを認識した機会となりました。

第62回日本大学工学部学術研究発表会

日時：令和元年12月7日(土)

<建築学部 第1会場：7033教室>

- ・日本建築学会New RC式によるポーラスコンクリートの静弾性係数の推定 ○武田昌也・齋藤俊克・出村克宣
- ・コア抜きしたポーラスコンクリートの基礎性状に関する一考察 ○齋藤俊克・出村克宣
- ・Effect of curing condition on hardening of geopolymer mortars
○SAMBUUNYAM SUNJIDMAA・SANJAY PAREEK・BAT-ERDENE PUREV-ERDENE
- ・USE OF FLY ASH IN PRODUCTION OF FOAM GLASS
○BAT-ERDENE PUREV-ERDENE・SANJAY PAREEK・SAMBUUNYAM SUNJIDMAA
- ・高層RC造建物のモデル化を見据えたRC部材のFEM解析
ー(その1) 繰り返し载荷を受けるRCスラブの解析ー ○堀川真之・荒井就英・浅里和茂・清水健次
- ・高層RC造建物のモデル化を見据えたRC部材のFEM解析
ー(その2) 水平2方向加力を受けるRC柱のFEM解析ー ○荒井就英・堀川真之・浅里和茂・清水健次
- ・せん断応力・せん断変形を考慮した平面骨組の断塑性解析
ー共回転座標を用いた大変位解析例ー ○赤羽聖明・野内英治
- ・EXCEL VBAによる模擬地震動の作成方法 ○野内英治
- ・新しい概念に基づく梁理論の応用 ○倉田光春

<建築学部 第2会場：7034教室>

- ・白河市の歴史的風致形成建造物の指定状況に関する研究
ー城下町地区を中心としてー ○岡部真純・市岡綾子・川口拓海
- ・白河の景観まちづくり協定に関する研究
ー田町地区の協定策定に向けた現状把握ー ○川口拓海・市岡綾子・岡部真純
- ・まちなかマーケットによる中心市街地のまちづくり
ー須賀川市のRojimaをケーススタディとしてー ○日比将斗・市岡綾子
- ・都市公園の利活用と居場所形成に関する実践的研究
ー須賀川市翠ヶ丘公園で開催したブックガーデンについてー ○市岡綾子
- ・過疎地域における公共施設の役割に関する研究
ー福島県葛尾村内の交流機能を持った施設を対象としてー ○伊藤和輝・浦部智義・仰木啓大
- ・東北6県における地歌舞伎の運営に関する研究
ー東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間と役割についての研究ー ○藤野純也・浦部智義・渡邊洋一・飯村萌
- ・東日本大震災後に福島県内に建設された応急仮設住宅団地の原状回復に関する研究
○久保田悠人・浦部智義・清水裕貴・芳賀沼整・滑田崇志・田中重夫
- ・熊本地震におけるコンビニの運用と駐車場の利用状況に関する調査分析 ○廣田篤彦
- ・入居者の重度化に伴う特養における運用方法の変容に関する研究
ー平面特性の類型化と使われ方に基づく課題ー ○山田義文
- ・中国安徽地域における伝統的住宅建築の特徴と活用に関する研究
ー西遞宏村を対象としてー ○李紫西・山田義文
- ・『翁島別荘地分譲計画』について ○速水清孝
- ・火災時における階段室内の煙挙動の検証 その2 ○齋藤恭平・森山修治
- ・既存の病院を利用した水平避難に関する研究 その2 ○森田祥太・森山修治
- ・東日本大震災直後に実施した津波避難ビルの調査記録
ー自治体へのヒアリング調査記録と津波避難ビルの効果と被害ー ○森山修治
- ・多目的ホールの音響特性及び設計手法に関する研究
ー縮尺模型におけるエコータイムパターン測定結果と実物における測定結果の比較ー ○最上依理加・濱田幸雄
- ・風車の空力騒音計測技術 ○長島久敏・濱田幸雄・川端浩和・小垣哲也
- ・建築物の遮音設計のための鉄道騒音の測定法に関する検討 ○濱田幸雄

学 会 発 表

* 届け出があった記事を掲載

■2019年日本建築学会大会

日時：令和元年9月3－6日 会場：金沢工業大学（石川県）

- ・水中養生したポーラスコンクリートの材齢と圧縮強度の関係 ○武田昌也・齋藤俊克・出村克宣
- ・外的粘性抵抗を受ける粘弾性梁要素理論とその応用（その1）梁要素の動的一般解を用いた基礎式 ○倉田光春・前島克郎・野内英治
- ・外的粘性抵抗を受ける粘弾性梁要素理論とその応用（その2）各種梁要素の固有値問題 ○前島克郎（五洋建設）・倉田光春・野内英治
- ・バサルト繊維シート積層補強によるすぎ材の曲げ性能に関する実験研究 ○西水真音（大阪市立大）・鈴木裕介・谷口与史也・荒木慶一・Sanjay PAREEK
- ・銅系超弾性合金を用いた自己復元型RC梁の構造特性に関する実験研究 PVA繊維との併用による変形及び損傷の制御 ○古川敦士（大阪市立大）・鈴木裕介・谷口与史也・喜瀬純男・Sanjay PAREEK・荒木慶一
- ・長周期地震動を受ける実大RC造多層立体骨組の短期性能評価（その1）相似則に基づく原型骨組の概要 ○清水健次（開発設計コンサルタント）・荒井就英・黒田啓太・堀川真之・浅里和茂・瀬下守・成瀬啓一
- ・長周期地震動を受ける実大RC造多層立体骨組の短期性能評価（その2）地震応答解析モデルの構築と相似則の検証 ○荒井就英・黒田啓太・堀川真之・浅里和茂・清水健次・瀬下守・成瀬啓一
- ・長周期地震動を受ける実大RC造多層立体骨組の短期性能評価（その3）RC柱に生じる初期応力が地震時挙動に及ぼす影響 ○黒田啓太・荒井就英・堀川真之・浅里和茂・清水健次・瀬下守・成瀬啓一
- ・サンドイッチパネルの屋外実験による実大規模及び中規模試験による燃焼性状の比較検討 ○眞尾駿太郎（松井建設）・Sanjay PAREEK・吉岡英樹・野口貴文・小林恭一
- ・火災時における階段室内の煙挙動の検証 ○齋藤恭平・森山修治・染谷朝幸
- ・文化財建造物を対象とした火災安全の研究－歴史的大規模木造宿泊施設を対象として その2－ ○栗原操生・森山修治
- ・文化財建造物を対象とした火災安全の研究－歴史的大規模木造宿泊施設を対象として その3－ ○森山修治・栗原操生
- ・既存の病院を利用した水平避難に関する研究 ○森田祥太・森山修治・染谷朝幸
- ・歴史的価値を有する大規模木造宿泊施設の安全性能確保特別調査委員会の活動（その2：手引書の概要）
- ・遮音設計のための鉄道騒音の測定法に関する研究 ○新宮清志（日本大）・八木真爾・後藤治・花里利一・森山修治・鯉坂徹・長谷見雄二・尾谷恒治・河合直人・藤田香織
- ・東日本大震災後に建設された復興拠点施設に関する研究－葛尾村復興交流館の計画と運営に関する調査分析－ ○濱田幸雄・岩本毅
- ・入居者の重度化に伴う特養における運用方法の変容に関する研究－その4．ハード・ソフト面によるアダプテーション－ ○伊藤和輝・浦部智義・作山和輝・芳賀沼整・滑田崇志・仰木啓大
- 山田義文
- ・白河市における景観まちづくりに関する研究 その1 白河提灯まつりとまちづくり ○岡部真純・市岡綾子・川口拓海
- ・白河市における景観まちづくりに関する研究 その2 田町地区の現状把握 ○川口拓海・市岡綾子・岡部真純
- ・福島県における景観行政に関する研究 59市町村の現状把握 ○守岡優希・市岡綾子
- ・近年に廃絶した岩手県内の2つの地歌舞伎に関する研究
- －東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割についての研究 その9－ ○飯村萌・浦部智義・渡邊洋一・藤野純也
- ・東日本大震災後に福島県に建設された応急仮設住宅の撤去・集約の現状－4自治体の比較分析－ ○久保田悠人・浦部智義・渡部昌治・芳賀沼整・滑田崇志・清水裕貴
- 清水裕貴・浦部智義・渡部昌治・芳賀沼整・滑田崇志・久保田悠人
- ・熊本地震後に建設された木造仮設住宅の再利用の現状 ○武井碩毅（熊本大）・浦部智義・渡部昌治
- ・三春町における大高正人のまちづくり手法について ○東野賢治（鹿島建設）・速水清孝
- ・伊達市霊山町霊山の大工 ○山岸吉弘
- ・漁業集落の復興まちづくりに関する合意形成に関する研究 ○羽出啓人（日本大）・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆
- ・海水浴場における水難事故防止方策に関する研究 ○森拓実（日本大）・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・鈴木康平
- ・葛尾村口ハス蔵・橋・ガーデン－産官学民参加による復興拠点づくり－ ○仰木啓大・浦部智義・作山和輝・芳賀沼整・滑田崇志・伊藤和輝

■International Conference on Advanced Technology Innovation 2019

日時：令和元年7月15－19日 会場：Sapporo, Japan

- ・Vibration Analysis of Two-Directional Functionally Graded Sandwich Beams Using a Shear Deformable Finite Element Formulation ○Vu Nam Pham, Dinh Kien Nguyen, Buntara Sthenly Gan

■The 2nd International Conference on Green Civil and Environmental Engineering

日時：令和元年9月4日 会場：Malang, Indonesia

- ・Economic prospects of Steel Reinforced Functionally Graded Concrete (SRFGC) beam structures ○Buntara S Gan, S Kiryu, Aylie Han, M Mirza Abdillah Pratama

■3rd ACF Symposium Assessment and Intervention of Existing Structures

日時：令和元年9月10日 会場：Sapporo, Japan

- ・Free Vibration of a Levy-Type Solution for Plates Based on Two-Variable Refined Plate Theory by Using SEM ○Shota Kiryu, Sofia W. Alisjahbana, Irene Alisjahbana, Mitsuo Nagao and Buntara Sthenly Gan

■7th International Conference of Euro Asia Civil Engineering Forum

日時：令和元年9月30日－10月1日 会場：Stuttgart, Germany

- ・Dynamic behavior of stiffened orthotropic plates subjected to Friedlander blast load ○Alisjahbana S. W., Alisjahbana I., Gan B. S., Safrilah S., Putra J., Chandra P.
- ・Free vibration of orthotropic levy-type solution plates by using SEM ○Kiryu S., Alisjahbana S. W., Alisjahbana I., Gan B. S.

■日本インテリア学会第31回大会

日時：令和元年10月26－27日 会場：広島工業大学（広島市）

- ・震災避難者の居住環境に関する研究－復興公営住宅のコミュニティ計画とデザイン－ ○岡部真純・市岡綾子

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・野内英治, 小野塚真規, 川原重明, 浅里和茂, 「鋼板挿入ドリフトピン接合2面せん断試験によるCLTパネルのせん断耐力」, 日本建築学会技術報告集, 第25巻, 第60号, pp. 649-654, June 2019.
- ・山田義文, 「入居者の重度化に伴う特養における運用方法の変容に関する研究—平面特性の類型化と使われ方に基づく課題—」, 日本建築学会地域施設計画研究, Vol. 37, pp. 157-164, July 2019.
- ・齋藤俊克, 出村克宣, 中田善久, 「ポーラスコンクリートの静弾性係数推定式と空隙補正係数」, 材料, Vol. 68, No. 10, pp. 773-778, Oct. 2019.
- ・出村克宣, 齋藤俊克, 西田電, 掛川勝, 「ポリマーセメントモルタル被覆によるコンクリートの中中性化抑制効果」, コンクリート構造物の補修, 補強, アップグレード論文報告集, Vol. 19, pp. 173-176, Oct. 2019. (第19回コンクリート構造物の補修, 補強, アップグレードシンポジウム)
- ・Shota Kiryu, Sofia W. Alisjahbana, Irene Alisjahbana, Mitsuo Nagao, Buntara S. Gan, Free vibration of a Levy-type solution for plates based on two-variable refined plate theory by using SEM, Journal of Vibroengineering, 21(3), pp. 726-735.
- ・Vu Nam Pham, Dinh Kien Nguyen, Buntara Sthenly Gan, Vibration Analysis of Two-Directional Functionally Graded Sandwich Beams Using a Shear Deformable Finite Element Formulation, Advances in Technology Innovation, 2(3), pp. 152-164.

■廣田教授と廣田研究室は、5月30日、7月4日・25日に西郷村の道の駅ワークショップに参加し、コーディネーターとファシリテーターを務めた。

■濱田教授は、7月8日、福島県より、中間貯蔵施設に関する専門家会議委員を委嘱された。

■武田昌也君(出村・齋藤研M1)は、7月10-12日に開催されたコンクリート工学年次大会2019(札幌)において、第41回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞(題目:普通コンクリートの各種静弾性係数推定式のポーラスコンクリートへの適用)を受賞した。

■市岡専任講師は、7月22日、福島県より、県中児童相談所整備事業基本・実施設計委託業務公募型プロポーザル審査委員会委員を委嘱され、副委員長に選出された。

■出村教授は、全国生コンクリート工業組合・共同組合連合会が発行する「ZEN NAMA」誌8月号の「My Essay」に、「生コン技術者」と題して寄稿された。

■山田専任講師は、8月1日、鏡石町より、(仮称)健康福祉センター基本計画策定委員を委嘱された。

■市岡専任講師と市岡研究室は、須賀川市議会事務局からの要請を受け、8月3日に開催された「夏休み子ども議会体験」の企画・運営協力を行った。

■浦部研究室は、8月4日、南会津町伊南地区にある国指定重要有形民俗文化財「大桃の舞台」で行われた、「大桃夢舞台」の企画・計画・運営を観光物産協会並びに住民と協働で行った。

■市岡専任講師は、8月7日、11月14日に開催された双葉駅東地区復興まちづくり意見交換会にアドバイザーとして参加し、川口拓海君(市岡研M2)、岡部真純さん(市岡研M1)、飯村萌さん・仰木啓太君(浦部研M1)、鈴木航一君・高城一輝君(市岡研4年)がWSに参加した。

■藤野純也君と伊藤和輝君(浦部研M2)は、8月16日、2019年度日本建築学会建築設計競技「ダンチを再考する」において、作品名「屋根裏同盟」で支部入選した(右図参照)。

■市岡専任講師は、8月19日、須賀川市より、須賀川市民交流センター運営協議会委員を委嘱され、副会長に選出された。

■廣田教授と廣田研究室は、8月28日、10月2日、11月6日に西郷村の拠点づくりワークショップに参加し、コーディネーターとサブファシリテーターを務めた。

■市岡専任講師は、9月12日・25日、10月5日、白河市より景観学習事業の講師を依頼された。また、市岡研究室を中心とした学生有志が児童の学習支援を行った。

■9月14日、建築施工Iの授業の一環として、信越半導体独身寮新築工事現場見学会が開催され、3年次生12名が参加した。

■土方吉雄元准教授は、9月16日、第70回県南美術展において、特選となる県南美術賞(作品名:「古都の午後」)を受賞された。

■市岡専任講師と市岡研究室は、9月21-22日、須賀川市翠ヶ丘公園で開催されたGO TORCHイベント(合同会社UGO主催)の開催協力を行った。

■廣田教授は、9月25日、喜多方市より、都市計画審議会の委員を委嘱され、会長に選出された。

教室ニュース

■9月27日、日本建築家協会(JIA)主催第23回東北建築学生賞で、16校18学科応募総数41作品中、澤島優君(浦部研4年)の作品が奨励賞(みやぎ建設総合センター賞)を受賞された(p4参照)。

■浦部教授と浦部研究室は、9月28日、葛尾村大尽屋敷跡で行われた「新能」の舞台・客席の計画・設計・設営を行い、またイベントの運営を協働した。

■出村教授は、コンクリート工学誌10月号の「さろん」に、「ロハス工学」と題して寄稿された。

■市岡専任講師は、10月1日、白河市より、白河市景観審議会委員を委嘱された。



■10月4日、積水ハウス株式会社郡山支店主催の本学科学生対象とする「関東住まいの夢工場見学会」に44名が参加した(p5参照)。

■市岡専任講師は、10月9日、福島県より、ふくしま県土づくりプラン有識者会議委員を委嘱され、副委員長に選出された。

■10月17-19日に弘前市で開催された日本建築家協会(JIA)全国大会にて、東北8大学による前川国男作品模型展示プロジェクトの一環として、速水教授指導のもと学生有志が集まり、「緑の相談所」作品の模型を夏休み期間に制作、会場展示された(p3参照)。

■岡部真純さん(市岡研M1)は、10月26-27日に開催された日本インテリア学会大会2019(広島)において、学生発表奨励賞(題目:震災避難者の居住環境に関する研究—復興公営住宅のコミュニティ計画とデザイン—)を受賞した。

■11月5日、住宅産業の女性施工管理職による団体「じゅうたく小町」による学生対象のセミナーが開催された(p2参照)。

■浦部教授と市岡専任講師は、11月11日、田村市より、田村市都市計画審議会委員を委嘱され、浦部教授が会長に選出された。

■市岡専任講師は、11月11日・14日、白河市立釜子小学校より景観学習事業の講師を依頼された。また、市岡研究室は児童の学習支援を行った。

■11月17日に郡山市公会堂で行われた、郡山市民対象の麓山地区づくりをテーマとした「あすまの会議2019〜秋」において、「ロハスな建築」と題して浦部教授、「木質建築」と題して宮崎専任講師、「歴史の視点から」と題して山岸専任講師が講演、また寺部友理さん(浦部研4年)・和久井亘君(浦部研3年)が話題提供をし、11月20日にはワークショップを行った。

■浦部教授と宮崎専任講師は、11月25日、福島県木材協同組合連合会主催の研修会において、「好まれる木質内装とは」と題して講演を行った。

■お見舞い・御礼■この度の台風19号により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。本学科も被災した研究室等がごいますが、お陰様をもちまして11月5日に再開いたしました。多くのご支援をいただき、誠にありがとうございました。